

平成29年度事業計画書

自：平成29年4月1日 至：平成30年3月31日

1. 学会運営

(1) 学会運営基本方針

以下の運営基本方針を継続する。

- ① 世界をリードする実装技術のけん引役としての活動
- ② 幅広い技術領域をカバーしていることを活かし展開
- ③ 将来を担う若い実装技術者の育成と魅力ある活動の場の提供

近年の会員数減少、論文投稿数減少と学会の将来に対する重大な問題が顕在化してきている。このような状況を打破するために、上記基本方針のもと、学会活動の活性化を図るために、従来活動に加え、他学会との連携、知名度向上に為に、新たな情報発信ツールの導入を含め活動を推進していく。

(2) 総務委員会

持続可能な学会運営を行うための事務局体制の確立を目指し、業務分担、役割の見直しを実施し、業務委託も視野に入れた事務局改革を実施する。さらに、電子化推進による、事務作業の効率化、会員サービスの向上を目指す。

(3) 財務委員会

持続可能な学会運営を行うための財務基盤の確立を目指し、収支均衡の財政運営、事務局経費の配賦基準等の見直しによる、会計処理の簡素化・適正化を実施し、更に予算管理の可視化を進める。

(4) 広報委員会

学会webのさらなる改善を実施し、学会からの情報発信を、公共向け、会員向けを更に強化していく。他学会との連携も視野に入れ、より多くの社会の認知度向上及び会員への情報サービス向上を図り、会員増強、イベント集客につなげていく。

(5) 会員増強委員会

大会事業、展示会事業、技術調査事業、教育事業、支部事業の各イベント開催を通じて、会員増強活動、新規入会優遇キャンペーンを行うことは、基より、近年の会員数の減少に歯止めをかけるべく、新規会員獲得に向け、各理事、各委員、各地区総出の獲得キャンペーンを実施する。

(6) ミッションフェロー活動

設立3ヶ年を経て、講演大会およびMESにおけるミッションフェローセッションが定着してきた。更なる学会活性化に向け、イベント企画、知名度向上に努めていく。

(7) JPCAとの連携

JPCA と JIEP は車の両輪のごとく、極めて重要なパートナーである。お互いの強みを生かし、現在の我が国の製造業の苦境を乗り切るための戦略を共有する取組を2017年度も継続する。

そのため市場ニーズの把握のための活動、そのニーズに対応した技術シーズに対する目標設定や新規技術領域の規格策定などについて定期的に意見交換を行い、情報の共有、活動の活性化を図るため、定期的に JPCA との戦略会議を開催する。

(8) アドバイザリボード

学会理事監事経験者を中心にしたアドバイザリボードメンバーを委嘱し、継続的に、学会運営に対して助言と貢献をお願いする。更に、学会員の減少に歯止めを掛けるべく、会員増強活動をお願いする。

2. 大会事業活動（定款第4条第1号関係）

春季講演大会、秋季大会マイクロエレクトロニクスシンポジウム（MES）、国際会議 ICEP、ワークショップを実施する。これらのイベントへの参加者および発表者の増加を図るため、新分野のセッション企画などを強化するとともに、収支改善のため運営の合理化を進める。さらに、各行事の将来の方向性、運営の充実を図るための仕組みづくりを考えていく。昨年度から、MES 及び春季講演大会において、非会員の発表も可能とした。今年度も、発表者数増加に向け継続的に実施する。

- (1) 「国際会議 ICEP 2017」を IEEE CPMT Society Japan Chapter および IMAPS の共催のもと、2017. 4. 19～21 に天童滝野湯ホテルにて開催する。海外への情報発信、国際交流を通じて、当学会の国際的プレゼンス向上を図る。
- (2) 「第27回秋季大会マイクロエレクトロニクスシンポジウム」を2017. 8. 29～30 に中京大学 名古屋キャンパスで開催する。実装分野の企業・大学・公共研究機関の最新の研究・開発の成果発表と情報交換の場を提供する。スマートプロセス学会と連携する Mate セッション、オーガナイズドセッション、JEITA ロードマップセッションなど充実を図る。
- (3) 2017 ワークショップを2017. 10. 26～27 にラフォーレ修善寺で開催する。注目されている実装技術、関連技術について、発表者と参加者と双方向のディスカッションにより理解を深めるイベントとして提供する。活性化を図り参加者を増やすとともに収支改善に努める。
- (4) 「第32回春季講演大会」を2018. 3. 6-8 に東京理科大学 野田キャンパスで開催する。実装分野の企業・大学・公共研究機関の最新技術開発の発表と情報交換の場を提供する。ものづくり技術の紹介により企業からの発表者、参加者を増やすとともに、チュートリアルセッションにより若手研究者の参加者増も図り、活性化、収益増をすすめる。

3. 展示会事業活動（定款第4条第1号関係）

JPCA Show と同時開催するマイクロエレクトロニクスショーの展示企画として、最先端実装技術シンポジウム、アカデミックプラザ、及び、eX-tech を実施する。また、セミコン・ジャパンにおいて学会活動紹介展示等を行う。

- (1) JPCA Show と同時開催のマイクロエレクトロニクスショー（2017. 6. 7～9 東京ビッグサイト）の展示企画として、「最先端実装技術シンポジウム」、「アカデミックプラザ」及び「eX-tech」を実施し、業界関係者への情報発信の強化、産学共同の情報交流の場の提供を行うとともに、JPCA Show 等同時開催の各展示会の活性化と集客にも貢献する。
- (2) 「セミコン・ジャパン 2017」（2017. 12. 13～15 東京ビッグサイト）に出展し、当学会活動紹介を通じて、半導体関係者へ情報発信と会員拡大を図る。

4. 技術調査事業活動（定款第4条第2号関係）

学会の基盤活動である技術委員会および研究会の活動を強化・活性化するため、横串的な研究会活動の立上げを促進する。技術委員会および研究会の運営について、自立化かつ健全化を推進する。技術運営委員会の組織について、委員会の活性化の観点から改組も含めて検討するとともに、収支均衡に向けてルール作りを行う。

前年に引き続き、技術委員会・研究会活動について、学会内外に発信し、研究会相互の連携促進、研究会外、学会外との交流による活動活性化を図る。

(1) 技術委員会の活動

12の技術委員会を組織し、実装技術分野の技術動向を調査し、それらの成果をまとめて、学会誌特集号に掲載する。また、大会事業や展示会事業に委員を派遣し、各イベン

トの企画運営を支援する。

(2) 研究会の活動

インテリジェント実装の新研究会を加えた26の研究会にて、エレクトロニクス実装技術領域の変化に対応する。基礎要素から応用までの幅広い実装関連テーマについて、委員相互の技術情報交換、情報共有の場を提供する。

(3) 技術調査事業活動成果の普及

技術委員会および研究会の活動で得られた成果については、公開研究会や学会誌などで広く公開する。

5. 教育事業活動（定款第4条第3号関係）

将来を担う実装技術者、若手技術者を育成するためにきわめて重要であり、学会の果たすべき重要な機能である。その点でニーズに対応した企画とするため、従来の講座以外に若手会員、新規会員、JPCAを含む賛助会員のニーズを掴み、新たな取組みや充実した活動を目指していく。

(1) 教育講座

実装分野の研究開発者の育成に寄与するため「PWB製造初級講座」（2017.6.26～27）と「実装技術総合基礎講座」（2017.9）を継続実施する。必要があれば、内容、資料等のアップデートも検討する。

(2) 教育セミナー

例年どおり、注目されている実装技術のテーマを平易に解説する「実装」セミナーを2回開催する。

(3) 実習付き教育講座

実習付き教育講座については、演習時間を充実確保するなどカリキュラムを工夫して、継続実施する。また、テーマについても、「伝熱解析」に限らず幅広く展開できる可能性もあるので、ニーズに応じて柔軟に検討する。

6. 会誌発行事業活動（定款第4条第4号関係）

学会活動のアウトプットとして重要であり、例年通り学会誌を7回、英文論文誌を1回発行する。編集作業の効率化のため、学会誌への投稿は、投稿審査システム（Editorial Manager®）の利用を原則とする。英文論文誌は、海外への情報発信を強化継続するため、電子閲覧での一般公開を継続するとともに、英文誌発行に先立ち、論文毎に準備ができ次第公開することとし、査読完了から公開までの期間短縮を図る。

(1) エレクトロニクス実装学会誌の発行

例年通り、機関誌「エレクトロニクス実装学会誌」を7回発行する。研究開発活動の成果として研究論文、総合論文、速報論文、解説等を掲載し、実装技術に関する最新情報を会員に提供する。また、理事会はじめ学会活動状況についても広報する。オンライン投稿審査システム（Editorial Manager®）については、操作性を改善し、利用者の利便性を向上していく事で、減少傾向にある論文投稿数の増加を目指したい。

(2) 英文論文誌の発行

本学会の国際的な認知とプレゼンスの向上を図るため、引き続き、英文論文誌（Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging Vol.9）を発行する。電子閲覧を基本とし、学会ホームページ及びJ-STAGE（科学技術振興機構の総合電子ジャーナルプラットフォーム）から一般閲覧できるようにして、海外への情報発信を活性化する。

(3) 韓国語翻訳転載、日経テクノロジーオンサイトへの抜粋版掲載

学会誌の研究論文、解説論文の一部を韓国語の雑誌への翻訳・転載を継続するが、依頼件数激減についての内容調査と、今後の対策を検討する。日経テクノロジーオンサイトへの抜粋版掲載を継続する。海外への情報発信と技術普及を促進する。

(4) 収支改善

会誌発行事業の収支改善に向け、広告収入の増強、経費削減（英文チェック費用、投稿原稿料、依頼原稿謝金などの見直し）を検討する。更に、学会誌の電子化も視野に入れ、検討を進めていく。

7. 国際事業活動（定款第4条第5号関係）

国際会議 ICEP を機軸に、IEEE CPMT Society Japan Chapter, IMAPS との連携を継続する。また、他の日本で開催される国際学会との連携も含めて、新たな仕組を構築する。また、IAAC(IMAPS All Asia Conference)を通じて、台湾、韓国との関係強化を進める。さらに、ASEAN 地域における学会活動拡大を念頭に、日系法人を中心にセミナー協力、技術情報提供など会員獲得を始める。

(1) 国際会議 ICEP2018 に係る IEEE CPMT Society Japan Chapter、IMAPS との連携

国際会議 ICEP2017 に続き、ICEP2018 に係る IEEE CPMT Society Japan Chapter、IMAPS との連携のため、前回と同様、MOU 締結の手続きを行う。投稿論文の IEEE Xplore 掲載を進める。

(2) 国際事業新体制

ICEP 開催に関して、ICEP Steering Committee を開催し、3年先を見据えた体制を構築する。また、他の日本で開催される国際学会との連携も含めて、新たな仕組を構築する。

(3) ASEAN 地域における学会活動展開

ベトナムなど ASEAN 地域における学会活動拡大を図る。日系法人を中心に会員獲得を進めるとともに、セミナー協力、技術情報提供など現地活動への協力を行う。

8. 支部事業活動（定款第4条第6号関係）

支部の主体性を尊重しつつ、活動を推進していく。関西支部は前年と同様に、若手研究者セミナー、技術講演会、関西ワークショップ、「ぷらっと関西」を開催する。九州支部の独自イベントとして、技術講演会と若手研究会セミナーを企画して支部会員の情報交流の場を提供するとともに、産業界・大学と連携する活動を行う。東北・北海道支部は、会員増強のために、支部としての活動強化、共催セミナーを通じて積極的な学会の PR 活動を行い、拡大を目指す。

(1) 関西支部の活動計画

関西ワークショップ（2017.7.12～13）、若手研究会セミナー（2017年10月に開催予定）、技術講演会（2018年3月開催予定）、および「ぷらっと関西」（2017年10月）のイベントを、引き続き実施する。関西ワークショップは前回同様、経験豊かな先輩を囲んでのナイトセッション等を企画し、参加者の増員を図る。

(2) 九州支部の活動計画

九州支部の独自イベントとして、技術講演会と若手研究会セミナーを企画して支部会員の情報交流の場を提供するとともに、産業界・大学と連携する活動を行う。

(3) 東北・北海道地区の活動計画

東北支部長のもと、東北地区の会員増強のために、支部としての活動強化、共催セミナーを通じた積極的な学会の PR 活動等を行う。

9. **表彰事業活動**（定款第4条第6号関係）

学会活動の活性化と研究開発者のモチベーションの向上のため、例年通り、エレクトロニクス実装に関する学術の発展および学会活動に対して功績のあった方に学会賞、功績賞、技術賞、論文賞、功労賞、およびマイスター賞を贈呈する。大会事業の各種イベント（春季講演大会、秋季大会 MES、国際会議 ICEP）についても、例年通り優秀発表者を表彰する。